

2000年度 原子核三者若手 夏の学校 三者総会議案書

編集：2000年度 三者事務局（筑波大学）

目次

第I部	活動報告、会計報告、承認	2
1	2000年度 三者センター校（東京都立大学）	2
2	2000年度 原子核パートセンター校（千葉大学）	4
3	2000年度 三者準備校（広島大学）	5
3.1	活動報告	5
3.2	現時点での決算報告	5
3.3	旅費の補助	6
3.4	三者準備校の活動について	6
4	2000年度 三者事務局（筑波大学）	7
4.1	活動報告	7
4.2	会計報告	7
4.3	2002年度三者役職校の承認	8
4.4	新たに役職ローテーションへ加わる大学の承認	8
5	1999年度 三者事務局（新潟大学）	9
5.1	活動報告	9
5.2	会計報告	9
6	2000年度 三者名簿校（金沢大学）	10
6.1	名簿校の活動報告	10
6.2	会計報告	10

第 II 部 議題	11
7 夏の学校開催時期を 8 月以降に	11
8 三者若手の会費	11
9 夏の学校縮小案	11
10 講義録出版の廃止，可能な範囲で Web 公開へ	12
10.1 講義録作成問題に関する状況	12
10.2 提案	13
10.3 講義録に関する著作権 (copyright) の問題	13
10.4 再度、提案	14
10.5 最後に	14
11 大阪大学素粒子論、原子核理論研究室若手の提案	15
11.1 夏の学校開催上の前提の確認	15
11.1.1 提案	15
11.2 春・秋における物理学会での若手総会	16
11.2.1 物理学会における若手総会に強い権限を与える。	16
11.2.2 学会・夏の学校以外での議論の場の設置	17
11.3 講義録作成問題	17
11.3.1 講義録廃止	17
11.3.2 それでも講義録が欲しい場合	17
11.3.3 大幅簡略化	17
11.3.4 CD-ROM 化、それに伴う印刷費削減	17

第I部

活動報告、会計報告、承認

1 2000年度三者センター校 (東京都立大学)

2000年度夏の学校決算見積もり (2000.6.7現在)

前年度繰越金 2,320,006

2000年度収入見込み

項目	金額
基研援助 (旅費補助)	484,440
基研援助 (ポスター印刷代)	57,060
素粒子論グループ援助	450,000
参加費 (316人×3,000)	948,000
合計	1,939,500

2000年度支出見込み

項目	金額
講師旅費	261,360
99年度夏の学校講義録 (150部)	362,250
学生旅費補助	636,842
三者事務局	0
三者センター校	5,750
三者準備校	223,220
素粒子パート事務局	0
素粒子パート準備校	15,000
原子核パートセンター校	1,265
原子核パート準備校	75,000
高エネルギーパート準備校	25,000
合計	1,605,687

役職校支出内訳

三者センター校（都立大）

項目	金額
振込手数料	4,250
録音関係費	1,500
合計	5,750

三者準備校（広島大）

項目	金額
下見・契約代	36,160
ポスター代	57,060
郵送料	70,000
コピー代	50,000
文具代	10,000
合計	223,220

素粒子パート準備校（新潟大）

項目	金額
録音関係費	10,000
消耗品代	2,000
研究会費	3,000
合計	15,000

原子核パートセンター校（千葉大）

項目	金額
振込手数料	680
郵送費・コピー費	585
合計	1,265

原子核パート準備校（東大）

項目	金額
Review Talker への謝礼 (15,000×2)	30,000
Topics 講師への謝礼	30,000
講義録テープ代、印刷費等	15,000
合計	75,000

高エネルギーパート準備校（阪大）

項目	金額
OHP ランプ予備	16,000
スクリーン運送代	8,000
講義録テープ代等	1,000
合計	25,000

残額

収入	1,939,500
支出	1,605,687
合計	333,813

- 2000.6.7 現在での決算見積もりのため、今後変わる可能性がある（最終的な決算は秋の学会の三者総会にて報告。）
- 2000.6.7 現在では 333,813 円の残額が見込まれる。
- 基研から 99 年度夏の学校講義録の印刷費補助を受けることができなかったため、今年度は参加費から出すことにした。
- 今年度、何人かの講師には自前の研究費で来て頂けることになりました。

2 2000 年度 原子核パートセンター校（千葉大学）

決算報告

今年度センター校の決算の内訳は以下のようになっています。

項目	金額（円）	備考
収入	2,500	—
支出	585	郵送費コピー費

従って、差額の 1915 円から繰越金振込手数料を引いた金額を三者センター校に返還します。

2000 年度原子核パートセンター校千葉大代表 佐藤
(satoms@c.chiba-u.ac.jp)

3 2000年度 三者準備校 (広島大学)

文責 :森井一成、見口博則 (広大)

3.1 活動報告

1. 2000年度原子核三者若手夏の学校

- 開催場所：長野県下高井郡木島平村上木島「パノラマランド木島平」
- 開催期間：7/20(木)~7/26(水)
- 参加人数：約320名
- 参加費：3,000円、1泊3食で5,250円

2. 主な活動

- 1999年8月：準備校グループ発足、会場候補地探し
- 1999年9月：秋の学会三者総会、会場と日程決定
- 1999年12月：仮契約
- 2000年1月：学会協賛を得る
- 2000年3月：春の学会三者総会
- 2000年5月：本契約、パンフレットとポスターの郵送
- 2000年6月：夏の学校参加者の受付、各パート準備校との連絡
- 2000年7月：夏の学校準備業務(部屋割り等)

3. 学会協賛

日本物理学会に協賛をお願いし、今年も協賛を得ることが出来た。学会誌(2000 Vol.55 No.3)の掲示板に三者夏の学校の掲示が載っている。

4. ポスター

ポスターは200部作成し、57,060円かかった。今年から、基研からの援助により作成した。

5. 予約受け付け

予約受け付けは、一昨年の準備校の東大で開発され、昨年の準備校の九州大で改良されたものを、さらに広島大で改良した自動システムを使った。セキュリティ上の問題のため、研究室内にメールサーバー、webサーバーが入った自由に使えるマシンを確保するのが大変だった。

3.2 現時点での決算報告

まだ、夏の学校が終了していないため、分からない部分が多い。

1. 準備校活動費

収入の部

項目	予算	決算
センター校より	230,000	330,000
計	230,000	330,000

- ホテルの前金が必要になったため、センター校より 100,000 円借りた。

支出の部

項目	予算	決算
下見・契約代	40,000	36,160
ポスター代	60,000	57,060
郵送料	70,000	22,510
コピー代	50,000	33,000
文具代	10,000	5,000
手数料等	0	未定
ホテル前金	100,000	100,000
計	330,000	253,730

- 手数料において、キャンセル分の手数料は各自に負担してもらう予定である。

$$\text{収入} - \text{支出} = 330,000 - 253,730 = 76,270 \text{ 円}$$

3.3 旅費の補助

昨年は 17,500 円を超える分について補助していたが、今年度は赤字財政のため、23,000 円に上げなければならなかった。そのため、補助の対象県が 4 県減った。

参加費から補助額を引いた余ったお金はセンター校に返すことになっている。

三者若手夏の学校の活性化のため、より多くの人に参加していただきたい。旅費の補助、参加費等を含めた財源について、あとで議案として提出する。

3.4 三者準備校の活動について

三者準備校の仕事を受け持ったが、その感想を述べておく。

- 準備校メーリングリスト

昨年に習い、広大の若手全員と準備校の仕事を把握する元準備校の主要な方々をメンバーとするメーリングリストを作り、議論はなるべく個人宛ではなくそのメーリングリストを使った。これにより、全員が作業の流れを把握できた。

- 予約受け付け

98年度準備校の東大が開発し、99年度準備校の九州大が改良したものを、さらに広島大が改良した結果、予約受け付けを自動にし仕事はかどった。ただ、セキュリティ上の問題で、いくつか注意をはらう必要があった。例えば、マシンを確保したり、E-mailでの自動受け付けをやめたりした。

が挙げられるであろう。

いろいろな研究室との共同作業のため、強いリーダーシップとコミュニケーションが必要で、ただ研究室をより集めて大規模校と考え、準備校の仕事を与えるのは危険だという印象を持った。

4 2000年度 三者事務局（筑波大学）

4.1 活動報告

1999年	9月	秋の学会における三者総会運営
2000年	3月	春の学会における三者総会運営
	5月	秋の学会における三者総会の会場申し込み
	6月	三者役職校の選定、仮決定
	6月	新しく役職ローテーションへ加わる大学を選定、仮決定
	7月	夏の三者総会の議案書を編集、発行

4.2 会計報告

議案書、議事録は電子化され、郵送依頼なども無いため、予算は使っていない。

予算	5000円
支出	0円

4.3 2002年度三者役職校の承認

これまでのローテーションの流れから、以下の大学が2002年度の役職を担当することに、承認をお願いします。

ML、HP 管理校 : 神戸大学
 名簿校 : 千葉大学
 センター校 : 京都大学
 準備校 : 名古屋大学
 事務局 : 九州大学

(参考) 2001年度までの三者役職校

	事務局	センター	準備校	名簿校	ML・HP 管理校*
1991年度	?	?	東北大	-	-
1992年度	?	?	新潟大・九大	-	-
1993年度	東北大	筑波大	金沢大	-	-
1994年度	東工大	東大	大阪大	-	-
1995年度	北大	九大	京大	-	-
1996年度	広島大	新潟大	名大	-	-
1997年度	都立大	金沢大	筑波大	神戸大・広島大	-
1998年度	大阪大	東北大	東大	京大	-
1999年度	新潟大	北大	東工大・九大	名大	-
2000年度	筑波大	都立大	広島大	金沢大	-
2001年度	東大	阪大	東北大	大阪市立大	茨城大

*1999年度夏の学校三者総会議事録にあるように名簿校の担当を分割した場合

4.4 新たに役職ローテーションへ加わる大学の承認

2003年度以降、

お茶の水女子大学

が、役職ローテーションへ加わることに、承認をお願いします。

ただし、学生数が少ないため、1999年度夏の学校三者総会の議事録と同様に、名簿校の仕事を分割して担当するということを条件とします。

(参考) 2002年度までのローテーション参加校

京都、金沢、九州、広島、新潟、神戸、大阪、筑波
 東京、東京工業、東京都立、東北、北海道、名古屋

文責 : 2000年度 三者事務局 (筑波大学)

5 1999年度 三者事務局（新潟大学）

5.1 活動報告

[講義録作成の依頼]

以下の点に注意して講義録を作成して頂くよう各パート準備校に呼び掛けました。

- 講師の方に印刷物にすることの了承を得ること
- ページ数の節約

[講義録の収集]

ゴールデンウィーク明けを目安に締め切りを決めました。最後の原稿が届いたのは6月に入ってからです。

- 原稿が集まらなると講義録の印刷費用が見積れない

ことが難点です。この問題をクリアするために昨年末までに集められないかどうか秋の学会で各パート準備校に打診したのですが、やはりそれはムリでした。

[講義録の編集]

原稿が集まれば1~2人で可能。

[講義録印刷の依頼]

去年は基研の補助を使って作成したので印刷も基研に頼んだが、今年は基研の補助を得ることができなかつたので、新潟大の物理教室でお世話になっている印刷所を紹介してもらいました。発注したのは7月5日です。

5.2 会計報告

[講義録印刷費について]

- '97 講義録印刷費

226 ページ (200 部) 241,499 円 (税込)
(「ページ番号」は印刷所で入れてもらった)

- '98 講義録印刷費

286 ページ (150 部) 289,800 円 (税込)
(「ページ番号」は自分で入れ、ダイレクト印刷)

(注) 共に、基研が指定した印刷所である。基研では、印刷されたものを基研が購入する(単価 X 円の本を Y 冊購入)という形で援助してもらった。

198,996 円 (103 冊分) が基研
90,804 円 (47 冊分) が三者若手

に別々に請求書が送られるという形。

(追加情報) 基研で発注する印刷物には私企業の広告は載せられません。

- '99 講義録印刷費

220 ページ (150 部) 362,250 円 (税込)
(「ページ番号」は自分で入れ、ダイレクト印刷)

6 2000 年度 三者名簿校 (金沢大学)

6.1 名簿校の活動報告

1. yonupa-ml、yonupa-homepage の管理 (石川直史)

2. 若手名簿の作成 (大黒安広 ほか)

2000 2月 連絡責任者の更新依頼
4月 名簿データ更新依頼
5月 印刷代見積り、名簿注文受付 (注文受付を sg-1 にも流す)
6月 名簿データの校正、印刷
7月 発送

6.2 会計報告

収入	各研究室より (名簿代)	598 冊 (現在の注文数) *400 円 / 冊	= 239,200
	(郵送料)		55,020
	99 年度からの繰越金		18,260
支出	名簿作成費 (660 部の見積り)		184,000
	郵送料		53,000
収入 - 支出			79,480

名簿代について

今年度は代金先払いとしたため、赤字にならないように価格に余裕を持たせた。会計報告は若干の変更が予想される。正確な数字は秋の学会にて報告の予定。

文責 : 大黒安広 (金沢大)
daikoku@hep.s.kanazawa-u.ac.jp

第II部 議題

7 夏の学校開催時期を8月以降に

2000年度 高エネルギーパート準備校 (阪大・京大)

日程に柔軟性を持たせる。高エネルギーパート参加者の中には加速器実験に携っているものが多数おり、夏には加速器が shutdown されるので、M2・DC 参加可能性が大きくなる。

8 三者若手の会費

2000年度 三者準備校 (広島大学)

昨年の秋の三者総会において、九大核理様からの議案と同様な議案を提出します。

本来、「三者若手」の活動のひとつとして「夏の学校」があるべきだが、現状では「三者若手」=「夏の学校」という図式になっていて、特に、夏の学校参加者が各役職校の活動をサポートする形になっています。参加費はあくまで夏の学校のためのみに利用するべきであると思います。

「三者若手の会費」のようなものを、例えば名簿更新時に徴収したらどうでしょうか。

9 夏の学校縮小案

東北大学素粒子論研究室の若手

文責 : 柿崎充、赤間尚之 (東北大学)

夏の学校の規模縮小について考えています。規模を縮小することで予算が削減され、また、参加者個人の負担も軽減されることで、参加しやすい環境になることが期待されます。

1. 開催期間の縮小

現在の日程から2日短くし(講義を2日*3から2日*2)、短期集中型の効率の良いものにする。

長所

- 実験などでまとまった時間が取れない人が参加しやすくなる。
- 宿泊に、食費など個人(各研究室)が負担する費用が少なくなる。

- 参加期間が短い分、宿泊施設の手配もしやすい。また、開催期間の変更もしやすい。

短所

- 開催に際した支出はあまり減らないと思われる。
- 前年度のやり方を踏襲できないので、準備校が大変。
- 遠くから来る人にとっては、コストパフォーマンスが低い。

2. 講義録の出版の廃止

出版物としての講義録を廃止する。webに載せるために講義録を作成するか否かは各パート準備校に任せる。

長所

- 印刷費などの支出をおさえられる。
- パート準備校の負担が減る。

短所

- 講義の記録が残らない。

10 講義録出版の廃止，可能な範囲で Web 公開へ

提案者：2000 年度 三者事務局（筑波大学）

文責：増野一幸（筑波大学）

10.1 講義録作成問題に関する状況

講義録の印刷には、多額の費用（およそ 30 万円）がかかるため、今まで基研からの援助で賄っていたが、昨年から予算が獲得できなくなった。そこで、2000 年度春の学会、三者若手総会において、次のような指針が組まれた。

- 講義録を作成するかしないか。
- 講義録を Web 上での報告にするかしないか。これは著作権の問題があるので、次の総会までに、可能か否かを 2001 年度事務局とセンター校とで話し合う。
- 今までは、講義録を無料で各研究室に配っていたが、これからはいくつかの研究機関を除いて有料とするのはどうか。
- 夏の学校の参加費を講義録作成にまわすか否か。

そこで、我々は次のような提案をする。

10.2 提案

夏の学校は、原子核三者に属する若手が自ら運営して教育の場を設ける、教育機関である。教育機関では、勉学者の利便をはかるために教科書や講義録が配布されるのは当然のことである。講義録を作成しないと、夏の学校が教育機関であるという意味合いが薄れてしまう恐れがある。したがって、

講義録は作成する。

ただし、従来のような講義録の出版は、

- 多額の費用がかかる。
- 予算を頂く機関(スポンサー)からの賛同が得られない。
- 費用を抑えたとすれば、労力がかかりすぎる。
(役職校の仕事の負担が大きいため、研究活動が阻害されるという指摘は以前からある。)

という理由から廃止にし、代わりに、

「可能な範囲で、Web 上で講義録を公開する。」

ということを提案する。

しかしながら、Web 上で講義録を公開するとなると、著作権の問題がより重要性を増してくる。そこで、その問題への対処法について、以下に述べる。

10.3 講義録に関する著作権 (copyright) の問題

この問題の解決には以下の過程を必要とする。

1. 講師の承諾

これは絶対に必要な条件である。

2. 講師へ出典の記載依頼

OHP で引用する、表や図の出典を明示しておくのは、マナーである。

3. 著作権元への若手活動の説明、許諾

著作物の複製をする場合、その著作権元に許諾を得なければ、当然、著作権違反となる。訴えられても文句は言えない。(講師の方が自分の著作を複製する場合にも、著作権元の出版者から許諾を得なければならない。講師の方へ確認必要。) この仕事は、講師にも役職校にも相当な負担がかかると思われる。また、意図せずに著作権で訴えられる危険性を回避するために著作権情報センターのような団体に相談するのはよいであろう。

4. Web 講義録へのアクセスにパスワード入力を必要とする。

「出版物に比べ、Webの方がより大衆の目に触れる」という理由で、Web化について、著作権の問題が生じている。これについては、パスワードを導入すればよい。パスワードの告知は夏の学校や三者総会で行えば、基本的に若手活動に参加している研究室からしかアクセスできなくなり、一般に、無制限な公開とは受け取られない。また、著作権(copyright)に抵触しない範囲内のWeb化であれば、ページに入る前に「教育用です。」と断っておけば、パスワードも必要ないと思われる。

10.4 再度、提案

これらを踏まえて、もう一度、提案する。

著作権(copyright)に抵触しない範囲内で、講義録をWeb化する。

上記の事項を最低限のルールとして、あとは作成者の裁量にまかせて、来年度からWeb講義録を作りましょう。もちろん、手間や費用がかからないように簡略化してください。そして、Web講義録の不足点や問題点について議論していきましょう。

10.5 最後に

もしこれまでのような講義録の作成を廃止し、Web公開を始めるということになれば、各パートで講義録をWeb公開することになるので実質、事務局のこの件に関する仕事はなくなる。代わりに、公開したWeb講義録が著作権に抵触しないか監視し、情報を提供する役になるべきでしょう。

(参考)

- 著作権法 35 条

「学校その他の教育機関(営利を目的として設置されているものを除く。)において教育を担当する者は、その授業の過程における使用に供することを目的とする場合には、必要と認められる限度において、公表された著作物を複製することができる。」

- 著作権法 32 条

「公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行なわれるものでなければならない。」

11 大阪大学素粒子論、原子核理論研究室若手の提案

はっきり言って補助金の無駄使いである。素粒子論グループに対して申し訳ない。このままでは、「原子核三者若手夏の学校の解散」も免れない。

はじめに

夏の学校は若手の有志によって運営されるべきものであり、仕事の押しつけ合いなどで議論がまとまらない、というのはおかしい話である。また「人数が少ないから」といって総会を欠席するのも許されざる行為であろう。総会原則出席は、夏の学校に参加する最低限の行為である。

単にイベントとしてしか夏の学校をとらえていない、またそれで良い、というのであれば、一切の対外援助を絶ち、全て実費で行うべきである。他から運営補助をもらうには有意義でない。

言い過ぎになるかも知れないが、悲しいことに現状では「単なるイベント」でしかない。参加される多数の若手は十分にアンケートに答えてくれず、また運営にかかわる議論には参加しない。かたや役職校の仕事は非常に負担の大きなものであり、物理の議論ができずに夏の学校が終わってしまう場合が多々ある。もしくは研究生生活の多くの時間がそれによって失われる、という状況すら生まれる。

若手の有志が存在しないならば即刻廃止すべきであるが、有志が多数存在されていることを期待して、次のような提案を行う。

11.1 夏の学校開催上の前提の確認

夏の学校を開催する上での前提は以下のようなものであると考える。

1. 夏の学校は有志によって行われるものである。よって参加者全員の手で運営されるべきものである。
2. 参加の主目的は勉強することであり、これを著しく妨げるような行為は慎むべきである。

以上のことを確認する。

11.1.1 提案

しかし現状においては以上の前提をわきまえずに夏の学校に参加している者が多い。これを改善するために、以下の提案を行う。

1. 来年以降は夏の学校開催前に、各研究室において夏の学校の意義を確認する話し合い

の場を設ける。それにより参加者(特に M1)は夏の学校の意義をわきまえた上で参加できるようになる。

2. より多くの大学に役職校、世話人の仕事をしてもらおう。夏の学校の意義を認めるならば、当然夏の学校の運営に加わって然るべきである。

仕事内容の関係から三者センター、三者準備校の仕事は大きな大学にしかできないが、パート準備校の仕事については、講義録作成を講師の方をお願いしたり、世話人、手伝いなどをほかの大学の人をお願いするなどの手段をとることで、小さい大学でも担当してもらえらる。

ただ下手に仕事を分担するとかえって仕事が増えてしまうことに注意。

3. 各研究室ごとに最低 1 人は研究会で発表することを義務づける。
(研究室の研究内容の紹介でも可?)

4. 総会対策。

- 原則全研究室参加。参加できないところは委任状の提出。
- 総会に参加しない研究室、夏の学校の運営、サポートを拒否する研究室、夏の学校開催の前提に賛同できない人、研究室の夏の学校への参加を拒否。

11.2 春・秋における物理学会での若手総会

例年、春の分科会と秋の学会では informal ながら若手総会が開かれる。しかしここで参加される若手人数は非常に少なく小規模である。特に連絡などがない場合など、問題が少ない場合はあまり問題にはならないが、今回の春の学会で行われた議論では、人数が少ないために何も議論できない状態に等しかった。またそれが理由で、決議をとることができない状態に陥った。具体的には講義録作成問題である。この状況では緊急議題があった場合や、夏の学校での若手総会まで待ってられない議題が起こったときには迅速な対応ができない。そのため、以下の提案を行う。

11.2.1 物理学会における若手総会に強い権限を与える。

学会に出席される若手の人数は、相当などとは言わないまでも結構なものである。少なくとも 10 人単位ではない。しかし夕方に行われる若手総会にはほとんどの方が出席されず、役職校がそれぞれの分担された仕事を報告するに留まっている。しかし報告だけでは何も進まない、進められない場合がある。夏の学校総会における上の提案と同様、基本的に参加してもらいたい。ただ学会の出席自体が夏の学校程ではないため、ここでも「委任状」提出を求める。

夏の学校における三者総会と同等の権限を持たせるのはどうか。

そして学会での若手総会でも、早急に決議すべき問題はその場で片付けていってはどうか。

11.2.2 学会・夏の学校以外での議論の場の設置

夏の学校総会、学会での若手総会でも間に合わない緊急議題が上がった場合、yonupa-mlのやりとりだけでは十分な議論が展開できない恐れが生じることもある。そのような場合でも、三者総会、学会での若手総会と同様、もしくはそれに準ずる権限を持つ会議を開くことを提案する。会場は東京など交通の便が良いところに限られるであろう。またその会議への旅費の問題があるが、これは若手の基金(夏の学校運営のための基金)などを財源にする。三者センター校が金銭面担当であるため、そこと相談して会議を開催する。

11.3 講義録作成問題

今年度の基礎物理学研究所からの資金援助において、講義録印刷代としての20万円が頂けなかったことに伴い、再度講義録作成について見直す必要がある。そこで以下に提案を行う。

11.3.1 講義録廃止

廃止、つまり完全に廃止すること。コストがかかり、また学生の研究時間を大幅に削るという不条理がある。この不条理をなくす手っ取り早い方法がこれである。

11.3.2 それでも講義録が欲しい場合

資金がないのにどこから製作資金を獲得するか。夏の学校に賛同する全国の研究室から一口1000円単位で寄付をもらう。それを作成費にあてる。この賛同を出さない研究室は、夏の学校の提供を受けない。つまり講義録が配布されない。

11.3.3 大幅簡略化

廃止までとは行かなくとも、講義で使われたOHPシート(但し使われたらの場合に限る)のコピーと少々のそれに対するノート。質問集に限る。講義が板書で行われた場合には簡単なまとめ、もしくは講師の方に講義ノートを提供してもらい、それをコピーする。

11.3.4 CD-ROM化、それに伴う印刷費削減

印刷費が問題なら、またRCNPの主張である「ペーパーレス化」を受けるなら、電子メディアにそれを訴える。上で作成された簡単な講義録をCD-ROM化する。業者に頼めば簡単に焼いてくれる。それを、夏の学校有志(研究室)に配布する。(但しmaster CDを作成するのは役職校。簡略化された講義録ならそんなに大きな大学でなくとも製作可能。)